

11月18日にハワイ文化歴史講座第2回目を開催しました。加えて、今回は断水中でも「子どもも大人も、島内も島外の人も、ほっと一息楽しめる時間を」と「資料館 Hang out day」（ゆっくりする日）として、様々なアクティビティも一緒に実施しました。

まず大内バラ園（出井）のかわいいバラと、資料館の花壇に咲いているマリーゴールドを使ったレイ作り。お花に囲まれて、子どもも大人も笑顔があふれ、「みんな違ってみんないい」それぞれの個性が光るレイができました。

その後、ハワイの子守唄を学び、ウクレレの伴奏

Hang out day を開催

日本ハワイ移民資料館



西田純子（カルチュラルアドバイザー）



で一緒に歌い、ランチは「せとうちつなぐキッチン」さん（日前）の美味しいお弁当を囲んでのおしゃべりタイム。食後は、ハワイの来館者（ハワイ語で「Aloha」）という植物療法の先生）のプレゼント「アラエ」というハワイの土を使った塩作りに挑戦しました。すりこぎとすり鉢で土の塊をゴリゴリ、そして塩と混ぜると、ミネラルたっぷりのピンクの塩ができました。

最後に私が担当する講座「なぜ大島からたくさんの人々がハワイへ渡ったの？」を開催。なぜハワイでプランテーション開発は進んだの？そのときの日

本はどんな状況だったの？大島は？そんな疑問に答えながら講座は進みました。

移民の時代は、日本もハワイも社会のシステムが大きく変わったときでした。時代に翻弄されながらも一生懸命に生きてきた、そんな人々の姿を少しでも感じてもらえたらとの思いを込めて話をしました。

今回は断水の中でも、たくさんの方が島の内外から参加してくださいました。移民資料館で時間を共にすると、なんだか一つの家族になれるので不思議です。ハワイを通じて日本を学ぶ、ハワイを通じて大島を学ぶ、そんな講座を来年度も続けていけたらと思っています。



毎月第4木曜日は 体力づくりの日

毎月第4木曜日は、ウォーキングや日常できる体操に関するアドバイスをしています。

午前中は陸上競技場で「いきいき健康ウォーキング」をします。おすすめはノルディックウォーキングです。90%の筋肉を使う全身運動で、普通のウォーキングよりエネルギー消費量が約20%も増加します。年齢や体力を問わずに取り組めて、全身の筋肉を鍛えるスポーツです。体力づくり、スタミナアップ、減量などにとても効果的です。初心者の方も安心して参加できる内容になっています。



午後からは総合体育館で正しい知識で効率的なトレーニングがかがでしよう。専門スタッフが機械の使い方、トレーニング法について助言します。例えば、こんな悩みを解消します。「使い方が分からない」「何を何回やればいいの？」

「運動前のストレッチはどうすれば？」ジムから足が遠のいていた方は、この機会に再開してみませんか。

▼健康ウォーキング

【日時】毎月第4木曜日（7～8月はお休み）10時～11時30分
【場所】周防大島町陸上競技場 ※雨天時総合体育館アリーナ（室内履きをお持ち下さい）

【対象】どなたでもご参加いただけます

【参加料】無料（予約不要です）

【携行品】タオル・飲み物・帽子等

【その他】歩きやすい服装でご参加ください

▼トレーニングルームでの講習

【日時】毎月第4木曜日13時30分～15時30分
【料金】トレーニングルーム利用料200円

文化の伝承 人気の表具講座 和の技を体験



八幡生涯学習のむら

表具工指導員・一級技能士の金本豊さんを講師に、10月27日（土）から11月18日（日）にかけて開催しました。受講者の方が実際に一人一本の掛軸を作りながら、表装に使われる言葉や使用する道具の意味、和紙と糊の扱い方などを指導いただきました。講座中は、なかなか身近に見ることのない職人の技とともに、表装の歴史や鑑賞の仕方などとお話いただき、一本の掛軸から日本の歴史や文化を学ぶ奥深い講座となりました。

次回回、来年5～6月頃に開催を予定しています。表具の世界や日本文化にふれてみたい方はどうぞお気軽にお問い合わせください。



ハワイ研修を経て

▼日本ハワイ移民資料館は山口大学が実施する課題解決型学習に協力しています。今回も本誌22号に引き続き、ハワイ研修を終えた学生の方の感想文をご紹介します。



●私は、カウアイ島で5日間の滞在中、ホームステイ先のカール・マツムラさんをはじめ多くのカウアイの方々のお世話になりました。カールさんは山口県に先祖を持つ方だったのですが、ハワイという環境も母語も、私たちとは異なり、色々な類似点、差異が見え面白い経験でした。カールさん家族は家では靴を脱ぎ、米や味噌汁、漬物を食べていました。

言語は主に英語、そしてハワイ語、日本語など様々な言語が混ざったビジン英語を使っていました。初めてお会いした時に、移動してきた私たちが疲れているように見えた様で、「えらい？」と尋ねられたので驚きました。カールさんはとても優しく面白い方でした。

カウアイ島で、McBryde Sugar Plantation Cemetery という墓地を訪れました。周防大島からカウアイ島へ150年も前に移住して、身を粉にして働き、いつか日本へ帰ろうと考えていた人たちの墓も多くありました。今後も周防大島とカウアイ島の結びつきがより強固になってほしいと思っています。

(山口大学国際総合科学部 4年 阿部祥子)

古写真の企画展示で 来館者コメント



本年度の企画展「古写真の風景を探る」が12月で終了しました。会期中には、宮本常一の写真に加えて、町内の歴史民俗資料館に所蔵している写真も展示。来館者の方々の思い出や気付きを付箋に書いて、直接貼り付けてもらうコーナーを設けました。

特に大島大橋の架橋工事の写真は、皆さんの思い入れが強かったようです。「保育園の時に開通パレードで笛を吹いて渡りました」「祖母の家に遊びに来ていた子供の頃、完成する橋が何色になるか楽しみに待っていたのを思い出します(オレンジ色だと確信していました)」

「大島大橋が架かる前を知らない。写真から大規模な工事だと改めてわかりました」といった、たくさんの方々のコメントが寄せられました。

イベントひろば

八幡生涯学習のむら

陶芸作品展のお知らせ

陶芸の館で行われている陶芸教室の講師と

受講生による作品展を開催。個性豊かな作品をぜひご覧ください。

日程…3月下旬

場所…ふれあいの間

古文書講座開催中

今年度は、寺子屋の教科書に続いてひらがなを中心に読みすすめています。一緒に古文書の世界をのぞいてみませんか。

日程…3月9日(土)

時間…10時~11時30分

場所…ふれあいの間

講師…古賀瑞枝(八幡生涯学習のむら学芸員)

参加費…1000円(資料代)

問い合わせ…0820・72・2601

宮本常一記念館

講演会「宮本写真の示すもの―佐渡島を事例に」

宮本常一写真をテーマにした講演会を開催します。

講師…池田哲夫氏(新潟大学名誉教授)

日時…2月10日(日)

13時30分~15時30分

会場…東和総合センター

入場無料/定員50名(先着順)

問い合わせ…0820・78・2514

※大島大橋船舶衝突事故の影響で開催を延期していた講演会です。



暮らしのモノ語り

ダイガラ

六万点の民具から:

米の精米や餅つきに使う道具。一般的にはカラウス(唐臼)と呼称される。白と、角材の先端に杵を付けた柄木からなる。柄木の部分だけをダイガラ(台柄)と呼ぶ場合もあり、形状からウマと呼ぶ地域もある。日本では中世の頃に普及したといわれ、その歴史は古い。柄木のやや手前に軸棒を通して支点とし、柄木の端を片足で踏んで杵を上下させる。杵には重さを増すために石を荒縄で括りつけたりもする。テコの原理を使って杵を上下させる



ので、縦杵や横杵よりも小さな力で効率よく作業できる。そのため、女性や子供が踏んで作業することが多かった。本を読みながら、糸を紡ぎながら米つきをする人もいたという。

精米機や電動餅つき機の普及によって使われなくなった。さらに近年では精米した米を買い、正月餅も買う人が多い。年末の風物詩であった親族や近所の人が集って餅をつく家も少なくなった。それでも、子どもの頃に納屋で精米をしたり、餅つきの手伝いをしたと懐かしそうに語る人も多い。ほとんどの農家が必ず一台もっていて、日常では精米に、そして正月やハレの日の餅つきに用いていたのである。(宮本常一記念館)